



お お と り ち ゅ う が っ こ う だ よ

大鳥中学校便り

だ い ろ く ご う
第六号

学校教育目標 ～豊かな心を育み、社会とのかかわりを大切に～
○感じる心(徳) ○考える力(知・体) ○行動する鳥中生(公・関)

よこはましりつおとりちゅうがっこう
横浜市立大鳥中学校

こうちやう しんじやう ひろし
校長 新庄 広

地域の皆様いつもありがとうございます。本校地域の皆様に見守られながら生徒たちは成長しています！

大鳥中学校の特別支援教育について

とても暑い日が続いた2024年の夏休みが終わりました。コロナ禍で中止されていたお祭りも全面的に復活し、本校の地域にいつものにぎわいが戻ってきたこの夏、生徒たちは地域の方々との温かな眼差しに守られながら安全に過ごし、多くの思い出を心に刻みました。本当にありがとうございました。

夏休み明け最初の学校便りでは、生徒一人ひとりに寄り添い、生徒の持つ可能性を最大限に伸ばすためにやっている「大鳥中学校の特別支援教育」について紹介します。

本校では、学校の特別支援教育の推進者となる「特別支援コーディネーター」の職員を中心に全教職員体制で、特別支援教育を行っています。「特別支援教育コーディネーター」教員は、横浜市教育委員会事務局主催の研修を1年間受け、資格を持った教員です。本校では2人の教員がその資格を所持し、今年度も1名が研修中です。

授業を受ける環境として、一般教室で授業を受ける以外の特別支援教育として以下の場所と方法を用意し、各生徒にとって個別最適な学びの環境になるようにしています。

- 様々なハンディキャップを有する生徒のために・・・学習室
 - 一般教室に入るのが不安な生徒へ安心できる居場所確保のために・・・リソースルーム
 - 今までの学習の遅れを取り戻したり、自分の進度で学習したい生徒のために・・・リソースルーム
 - 外国につながる生徒の学習場所のために・・・国際教室
- 他にも、各教室での授業へ複数の教員が入り個別に生徒をサポートしたり、学習室在籍生徒が一般学級で学習したりと、各生徒の必要性に応じた学びの環境を用意しています。

<大鳥中学校の特別支援教育の実践>

① 校内特別支援委員会
個別最適な学びの環境を用意するため、月に一度、定例の「校内特別支援委員会」を行い、状況によっては臨時の会も開催しています。メンバーは校長、副校長、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、生徒指導専任教諭、各学年主任、学習室担当教員。本校の特別支援教育を利用する生徒の情報交換と今後の各生徒の方向性を共有し、学習室への学びの場の変更や、リソースルーム、国際教室等の利用に関しての承認等を行います。

② リソースルーム、国際教室等の利用の提案
生徒から上記教室の利用希望があった場合、校内特別支援委員会で、その方向性の共有と今後の展開を議論し、方向性を決めます。対象生徒の学年にその情報を共有し、担任教諭から各生徒へリソースルーム利用等の提案がなされます。提案の方法は、個人面談（教育相談）、保護者への電話連絡等、各生徒の状況に合わせ、柔軟に対応しています。

③配布資料等

目的、注意事項等を記載した資料を各生徒に配布し、記入・提出してもらい、本人保護者面談の際に利用の最終確認をします。利用生徒の「個別の支援計画」「個別の指導計画」を担当が作成し、生徒の学習支援にいかすようにします。

④校内支援体制

非常勤職員1名と教員免許を持った職員室アシスタント1名の2名体制で生徒の時間割や出席管理をしています。横浜市の施策としての全校設置校内ハートフル事業は、今年度9月から新規に実施しています。

全教職員体制で特別支援教育を行うため、時間割の中に各教員が担当するコマ（授業）を入れてあります。実技教科等、生徒の必要性に応じて、図書室、美術室等の特別教室に場所を変更して教科担当が授業を行うこともあります。

登校支援が目的の場合は、その日の生徒の心の状況により、授業内容を決めています。保護者が一緒に登校する場合は、その引き継ぎを確実に、家庭と学校との連携を大切にしています。学習の課題克服が目的の場合は、各自の課題を明確にするため、小学校でつまづいた段階までさかのぼってから学習をスタートさせています。また、3年生の受験前には志望する進路先の傾向に合わせた練習問題等に取り組むこともあります。

<成果> * 利用者の言葉から

- ・「〇〇先生がリソースルームで、僕に数学を教えてくださいました。いろいろなことを身に付けることができました。そのおかげで、試験当日、スラスラかけました。もし、リソースルームの時間がなかったら何も身に付かなかっただし、数学の楽しさについて知ることができませんでした。本当に数学を教えてくださいましてありがとうございました。」（卒業生）
- ・「リソースルームには、安心して行くことができます。気分が晴れなくて何もできないときには、落ち着くための時間を取ることを許してくださるので、心が軽くなります。担任の先生も含め、沢山の先生が来てくださるので、ひとりぼっちだという気持ちにはなりません。」（在籍生徒）
- ・「全職員で対応するので、特別支援教室の存在が学校中に浸透してきました。連携力が向上したおかげで、生徒の成長について職員室で会話することが増えてきました。」（担当職員）

<課題>

本校生徒へのアンケートや声を聴くと、特別支援教室利用に踏み切ることに対する複雑な生徒・保護者の気持ちも数多く寄せられています。「一般教室で授業を受けることの方が大切なのではないか」「一人で教室から離れ、リソースルームを利用すると、みんなが見ているような気がする。」等。また、特別支援教室で学習した場合の評価・評定をどうするか、ということは高校入試の際に非常に重要であるため、教育委員会事務局等と連携を取り、対応していかなくてはなりません。職員体制についても、日々の通常授業のときには、体制が取れていますが体育祭、文化祭等の行事のときに職員の手が薄くなるときがあるため、改善が必要です。

横浜市の方向性に則りながら「個別最適な学び」を実践すべく様々な具体策をすすめています。学習支援を個別に行い「わかった!」の笑顔を引き出し「できた!」の自信につなげます。登校支援で、安心できる場所を提供し、落ち着いて過ごせることからくる微笑みを心の安定につなげます。

生徒が生き生きと個性を育むことのできる大鳥中学校にしていきますので、ご期待ください。



〈着任職員紹介〉

江内 恵子 (えうち けいこ) 先生

9月より、リソースルームで主に登校支援を担当いたします。
よろしくお願いたします。



♡ 8月に行われた行事から

○ 「横浜子ども会議」 中区交流会 8月29日(木) 中区役所会議室

「横浜子ども会議」は平成25年度から始まりました。中区の交流会は区内の小・中学生と、みなと総合高校の生徒が集まり、いじめ防止について各学校の取り組みを発表し、話し合いを行いました。大鳥中学校からは2名の生徒会役員が出席し、活発な討議を行いました。

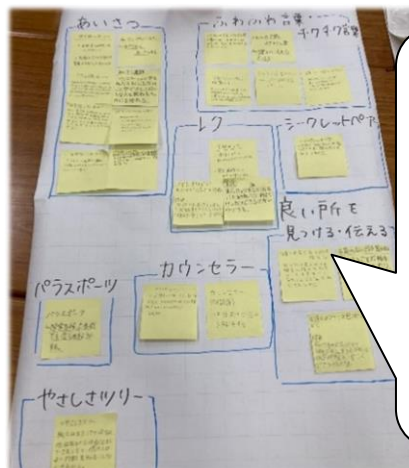
3年2組 小川玲奈さん

自分の学校の取り組みと他校の取り組みを比較しながら会議に参加することができました。どう改善すべきか悩んでいたことも、今回の話し合いを通して改善策が浮かんできました。また、いじめ未然防止に対して相手を尊重することの大切さや、友達や他学年と交流しコミュニケーションをとることがいじめ防止につながるということを学ぶことができました。

これから「一つひとつの言動に気を付けること」「正確に伝えること」を意識していきたいです。

3年2組 岩崎凌馬さん

まずは、今日出た意見を学年の子や後輩に「中区の小中学生にはこんなにすごい人達がいるんだよ!」と自慢げに言いたいと思いました。それくらい僕は他校の人の意見にはっとさせられました。自分が学校に戻って実践したいなと思える意見もありました。また、全校に伝えるためには、自分もやっていると自信をもって言えるように、日頃からいじめ防止のために色々な人と話したり、コミュニケーションをとったりしようと思えるきっかけになり、今回の会議に参加してとても良かったなと思いました。今すぐ大鳥中学校で実行したいなという思いでいっぱいです。



居心地の良い
おとりちゅうがっこう
大鳥中学校に
なるように、
これからも
全校生徒のみ
なさんと一緒
に話し合っ
ていしまし
ょう!